

第4回中部 MISt (Minimally Invasive Spine Stabilization) 研究会 in Toyama Hands-on Seminar & 本会 報告書

平成27年9月12日(土)富山県民会館(富山市)において第4回中部 MISt 研究会を開催させていただきました。各地で相次ぐ豪雨災害が起きていましたが、研究会開催中は幸い天候よく、中部地区だけでなく、関東、関西などからも多くのドクター、コメディカルスタッフにご参加いただきました。関係者も含めると参加者は100名以上ののぼり、まことに大盛況のうちに終わることができましたのでここに報告させていただきます。

中部 MISt 研究会本会前の午前中を利用してコメディカルスタッフを対象とした MISt・PPS 手技の Hands-on Seminar が開催されました。MISt 研究会としては2回目の試みでしたが、前回の好評もあり早くから定員オーバーとなりました。締め切り前にもかかわらずキャンセル待ちなど大変ご迷惑をおかけしましたが、今回1テーブル毎にソーボーンを1,2体用意していただき参加人数を5名前後に制限させていただいたことで、参加者全員が希望の MISt 器械・手技を実際に行うことができ、その手技に精通したファカルティーと気楽に質疑応答ができ良かったとの評価をいただきました。アンケート調査結果ではまた参加したいが100%でしたので次回開催時は募集開始後早めの申し込みをお勧めします。

総合レクチャーでは、日本鋼管病院 大森一生先生より『後方・側方進入低侵襲椎体間固定術 - 執刀医の観点から -』と題し、脊椎手術の基本から症状に合わせた MISt の選択までご講義いただきました。続いて、名古屋第二赤十字病院 手術室 Ns. 関上彩さんより『器械出し実践方法と工夫 ~ 脊椎脊髄外科ナースを目指して~』と題し、日頃の実践ポイントから取り組んでいる活動を、続いてはちや整形外科病院 手術室 Ns. 丹羽雄二さんより『MISt 器械出し早期習得を目指して』として新人に対しての育成方法の取り組みだけでなく蜂谷先生と丹羽さんとの息の合った素早い PPS 挿入のビデオを紹介していただき会場からため息がもれていました。それぞれの講演でチーム医療の目指すべき姿の一端を見せていただき私も勉強になりました。

レクチャー終了後は、各テーブル(XLIF/PPS (NuVasive 社) 1 テーブル、OLIF (Medotoronic 社) 1 テーブル、PPS (Medotoronic 社、Stryker 社、J&J、Depuy 社※順不同) 各1テーブルの計5テーブル)にわかれ、ワークショップに移りました。その後、各メーカープレゼンもあり、少しタイトスケジュールとなりましたが、午後の本会にそのまま参加されたコメディカルスタッフも多く、中部 MISt の掲げる目標の一つである“メーカ

一も含めたチーム医療推進”に効果が出てきている様でした。

本会の一般演題は今回初めてコメディカルセッションを設けました。発表された5演題すべてが興味深くドクターの視点と違う面、特にチーム医療の観点からMIStをとらえているものも多く、執刀医にも参考になる内容でした。その中からコメディカルセッション優秀演題賞として『MIStにおける脊髄神経モニタリング』名古屋第二赤十字病院 医療技術部生体検査課 近藤 規明さんが厳正な審査の上で受賞されました。ドクターセッションは、12題あり、時間的に非常にタイトとなりましたが座長の先生方のご協力により活発な質疑にも拘らず、ほぼ時間通りに進行し、無事本音会に移行できましたことを改めて御礼申し上げます。発表内容はパーキンソン病などの難治症例に対する脊柱再建手術から前方法を含めたMIStを駆使した手術方法の工夫まで幅広く、いずれも大変興味深い内容でした。その中で今回のドクターセッション優秀演題賞は中部MIStの幹事メンバーである愛知医科大学 脊椎脊髄センター 竹内 幹伸先生が『術中バンコマイシン散布は術後創部感染を減らすことができるか？二重盲検ランダム化比較試験』の演題で受賞されたことを報告させていただきます。次回も賞が継続すれば当院で中部MISt賞を狙いたいと思います。

ミニレクチャー1 題目は名古屋市立西部医療センター 整形外科・脊椎センター長 稲田 充先生に『腰椎変性疾患に対する CBT のコツと pitfall』についてご講演をいただき、CBT の基本手技からピットフォールまでを大変わかりやすくご教授いただきました。ミニレクチャー2 題目は、医療法人蜂友会はちや整形外科病院 蜂谷 裕道先生に『腰椎変性疾患に対する XLIF の神髄』についてご教授いただきました。これらの講演題名につきましては代表幹事の私より無理に指定させていただきました。快くお引き受けいただき、ありがとうございました。短い時間にも拘らず受講者に解り易くご講演していただきました。

そして特別講演は慶應義塾大学医学部 整形外科学教室 脊椎班チーフ、日本MISt 会長 石井 賢先生をお招きし、『腰椎変性疾患の治療戦略』というテーマでご講演を賜りました。腰椎変性疾患について先生がこれまで行われてきた多くの研究から、われわれの目指すべき治療目標とこれから解明すべき問題点についてお示し頂きました。日本MISt研究会を牽引する先生が脊椎手術の低侵襲化についてに止まらず医療技術開発や基礎研究、さらにはアンチエイジングにわたるまで広くお話し頂けたことは、参加頂いた医師を含めメディカルスタッフ全員にとって実に有意義で意味深い講演であったと思われまます。

一般演題 17 題、ミニレクチャー2 題、特別講演 1 題とかなり過密なプログラムとなりましたが、参加していただいた皆様が疲れを感じさせない活発なご討論を行って頂き、今

後のこの地域でのMIStのさらなる発展を大いに感じさせる研究会となりました。その後の本音会についてはあえてここに詳細は報告しませんが、さらに疲れを感じさせない活発な症例提示や合併症のビデオ提示があり、会員、参加者の親交を深めることができました。石井先生のお言葉をお借りして ALL JAPAN! で締めくくらせていただきます。

最後になりましたが、第4回中部MISt研究会開催に際しましてご協力をいただいたみなさま、参会いただいた方々、誠にありがとうございました。また、この場をお借りして本研究会の趣旨にご賛同いただきました多くの企業の皆様に心より深く感謝申し上げます。今後とも何とぞよろしくお願い申し上げます。

第4回中部MISt研究会

当番幹事 中野 正人

高岡市民病院 整形外科

